

「五七五は命のリズム」

橋本 世紀男



筆者（みずほ信託銀行本店  
夢二のカラー石碑の前にて）

俳句だけを毎日一句ずつ、一年間まとめた句集は珍しくありませんが、俳句と川柳の両方を載せた句集は、私は今までまだ見たことはありません。タイトルは「五七五は命のリズム」ですが、非売品のため信交会事務局に閲覧用を用意していただいております。

晩学俳句始め

川柳は時々詠んでいましたが、俳句に取り組み始めたのは、67歳のときです。先輩に誘われて、信交会の俳句会に入会しました。私の場合は晩学もいいところですので、俳句結社には入らず、自己流で詠み始めました。生意気にも結社に入って特定の先生の色に染まるよりも、自分の感性、直感を大事にしたいと思ったのです。独善的にならないように、俳句の専門誌や俳句大会への投句など、他流試合を通して学ぶように心がけました。

信交会の俳句会に入会して1年後に初めて角川月刊誌『俳句』に投句してみました。いきなり【佳作】に選ばれて驚きました。

\* 流鏑馬や羽生名人の駒捌ぎ  
(将棋の駒と馬を掛けてみました)

やる気が出てきましたので、各種俳句大会等に積極的に参加しました。

住んでいるマンションの近くに、江東区芭蕉記念館があり、そこで江東区俳句連盟の俳句会が毎月開かれています。強く誘われて、信交会の俳句会から移りました。現在は東京都俳句連盟に所属しています。

時雨忌

2015年10月に、びっくりするような幸運に恵まれました。「時雨忌（芭蕉忌）全国俳句大会」で、応募総数1490句の中から最高位の【時雨忌賞】に選ばれ、賞状とプロンズのトロフィーをいただきました。全国大会で、キャリアの浅い私がトップになるとは夢にも思いませんでした。

\* 目印はみどりの芭蕉記念館

この年初めて「テーマ句」が設けられ、テーマは「みどり」でした。芭蕉記念館の前には芭蕉が植えてあり、屋根は緑色です。この句は1年間、芭蕉記念館に掲示されました。

夢二俳句大賞

2017年9月に再び幸運に恵まれました。応募総数1971句の中から最高位の【夢二俳句大賞】に選ばれ、副賞賞金20万円をいただきました。俳句大会では、賞状そのものが

が栄誉で賞品はささやかなのが一般的です。ましてや賞金のある俳句大会は数えるほどしかありません。群馬県伊香保温泉での俳句大会で表彰されました。地元紙の『上毛新聞』に、カラー写真付きで報道され、生涯の記念になりました。

さすかった一句

東京都俳句連盟の『都俳連マガジン』創刊号（2018年8月号）で、「さすかった一句」に選ばれました。

\* オルガンで校歌斉唱卒業す

2016年11月作。角川の月刊誌『俳句』の題詠、昭和を詠むシリーズ「昭和の音楽」に投句して、【特選】に選ばれました。選者の小笠原和男先生は、この年12月に逝去されました。おそらく最後のご選句と推察され、【特選】に選んでいただき厳粛な気持ちになりました。俳句によりいつそう精進しようと決意を新たにしました次第です。

隨筆 「俳句は命のリズム」

雑誌『財界』2014年12月2日号に掲載された隨筆の抜粋です。  
人気映画シリーズ「男はつらいよ」のフーテンの寅さんこと、渥美清が俳句を趣味としていたことを知らさ

「句集」出版

75歳になり後期（高貴？光輝？）高齢者の仲間入りをしたのを契機に俳句と川柳の『句集』を出版しました。1月1日から12月31日まで、毎日俳句と川柳を一句ずつまとめたものです。

1月1日

\* 初暦 未知の一年 壁に掛け

\* 老境を 佳境に変える 五七五

12月31日

\* 除夜の鐘 喜怒哀楽の 響きかな

\* 除夜の鐘 響く頃には 大いびき

れたときは驚きました。俳号は「風天」。

\*お遍路が一行に行く虹の中 風天

俳優・渥美清は1996年8月に転移性肺がんのため68歳で亡くなりましたが、この句は死の2年前の作。人知れずがんと闘っていた晩年、忍び寄る死を予感していたのかも知れません。

\*好きだからつよくぶつけた雪合戦 風天 (中略)

\*シベリアの兄愛用の防寒帽

2014年にこの句が角川月刊誌『俳句』の【佳作】に選ばれ、兄に知らせたところ、85歳の兄が自分も俳句を始めたいと言いつい出、驚くと同時に嬉しく思いました。

兄は余程つらい体験をしたのか、抑留の話は一切誰にもしませんでしたが、この句がきっかけで少し話してくれました。兄は騎兵小隊長で幹部候補だったため、シベリアではなくモスクワ郊外に抑留されていたこと。私は日本兵は皆シベリアに抑留されていたものと思ひ込んでいました。モスクワ郊外から舞鶴経由ではるばる南九州の実家にたどり着いたとき、持ち物は軍用毛布と防寒帽くらいでした。兄は腹部に弾痕があり、傷痕軍人でもありました。

\*シベリアの兄の弾痕鳥帰る

この句も『俳句』の【佳作】に選ばれました。国民皆が戦争に翻弄された時代を生き抜いた兄は2014年10月、91歳の誕生日の直前に永眠しました。

\*防寒帽胸に抱かせ棺閉づ (後略)

### 俳句の魅力

俳句に取り組み始めてから、身の周りの景色が今までと違って見えるようになりました。気付かなかった草花や木々の美しさを発見し、蝶や蟻はもちろんのこと、雑草も含めて生きとし生けるものすべてにやさしいまなざしを注ぐようになりました。ある俳句大会で、小島 健先生の講演があり、俳句仲間に講演要旨を送りましたところ、次のような返信が届きました。

『NHK俳句』誌に載っていた小島先生の言葉が強く印象に残っております。『俳句は自然の美しい季節の移ろいや、人の温かい情愛、笑いを詠むことにより、感動が得られ、心を潤すことが出来る。そして、何よりも俳句には自分と他人を慰め、励ます大きな強い力がある。これが、『俳句力』』

最近俳句や川柳の人氣が高まっています。俳句を教える小学校も増え、NHK学園の俳句講座で学んだ人は

延べ55万人を超えるそうです。

私が67歳で始めたように、俳句は何歳になっても始められます。俳句は認知症の予防にも役立つという説もあります。これから始めてみようかなと思われる方は、地域のカルチャーセンターの俳句教室やNHK学園の通信教育を検討してみてください。俳句の世界の素晴しいのは、初心者もベテランも完全に対等なことです。俳句を通じて新しい俳句仲間と親しくなれるのも魅力の一つです。

### 俳句 思い出の句

\* 蛍飛ぶ恋の音符を紡ぎつつ

交通新聞社『ジパング倶楽部』

2011年10月号

【トップ】に 掲載されました。その後推敲を重ねた結果。

\* 螢舞ふ恋の音符を紡ぎつつ

\* 水の星水の里なりみずすまし

『夏目漱石顕彰草枕国際俳句大会』

2012年11月(熊本市)

【日本航空賞】

\* 初みくじ誰にも見せず結びにけり

『東京都俳句連盟誌上句会』 『都連NEWS』2015年4月号

第1位に選ばれました。

\* ドーナツの穴まで食べて山笑う

『鬼貫顕彰俳句大会』(伊丹市) 2016年8月

坪内稔典先生選 【鬼貫賞】

\* もののふの無念は永遠に実朝忌

『実朝忌俳句大会』(鎌倉市) 2017年3月

【鎌倉市観光協会賞】

### 川柳 思い出の句

『朝日新聞 朝日川柳』

\* 母国語はコマーシャルでもなつかしき ロンドン赴任後、エアメールで 初投句して入選しました。

\* 気をつけよう暗い夜道と軍国化

『NHK学園 全国川柳大会』

\* 天高く馬より先に妻が肥え

\* マドンナの皺を見つめるクラス会

\* 夫婦岩大きい方が妻のはず

『毎日新聞 脳トレ川柳』

\* 定年後忘れていないごみ出し日

\* 野良猫は私の愚痴に耳を貸す

\* 老人会佳人薄命禁句です

『毎日新聞 仲畑流万能川柳』

\* 服を買う 妻は入学しないのに

\* 芸人が先に笑うと笑えない

\* マジックが文書消えたり出てきたり

\* 失言でやっと大臣名が売れる

\* 丁寧な真摯に受け止め何もせず